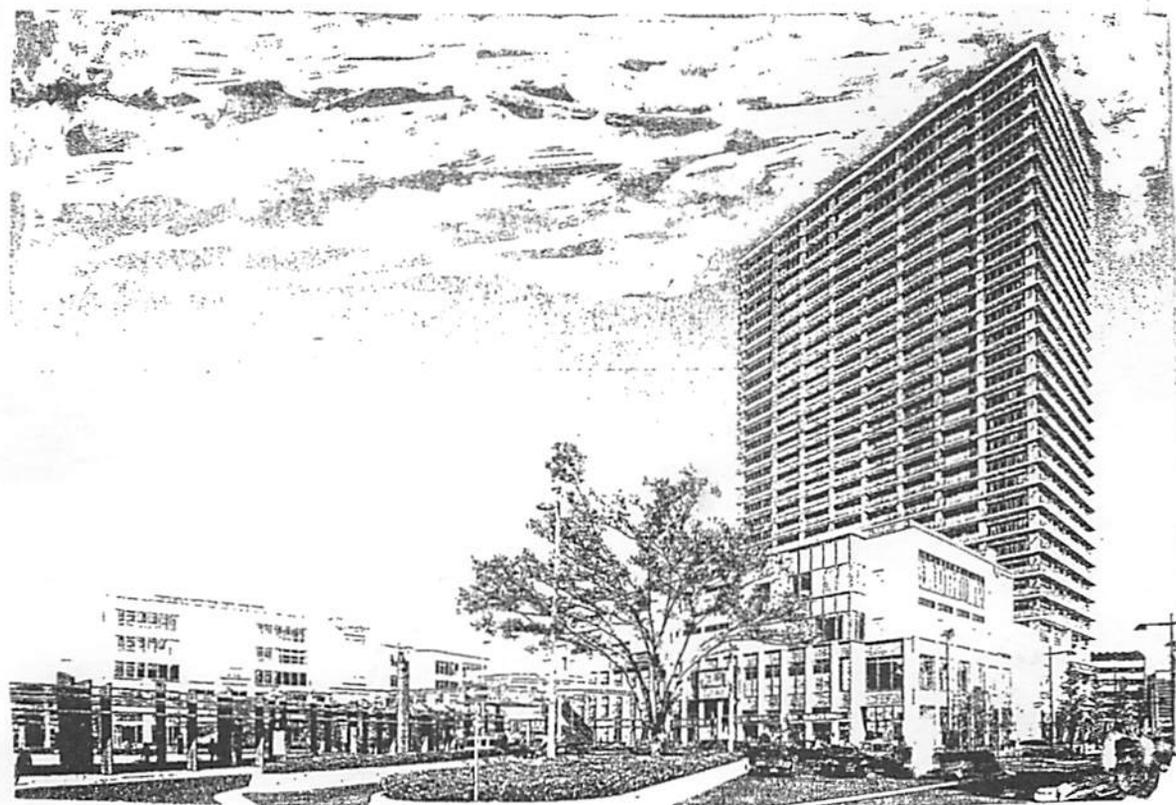


平成25年10月20日(日)

第442回 史跡めぐり

越谷の原点・半日すてき旅

古代から現代までの越谷市内(越ヶ谷・柳町・御殿町・越ヶ谷本町・中町)の史跡を巡ります。



越谷駅前ステーションタワー

「高さ」99.8m 地上29階、地下1階 平成24年完成

NPO 法人越谷市郷土研究会

平成25年10月20日(日)

第442回 史跡めぐり

越谷の原点・半日すてき旅

古代から現代までの越谷市内（越ヶ谷・御殿町・越ヶ谷本町・中町）の史跡巡り。

越ヶ谷地区 「越ヶ谷駅創設記念碑、旧市役所跡、澄海寺跡、
瓦曾根溜井、水準点、順正会記念碑、越谷実科女学
校跡、観音堂、旧気象観測点と雨量計」

御殿町地区 「伏越、越谷幼稚園、建長板碑、越ヶ谷御殿跡」

越ヶ谷本町地区 「市神神明社、会田金物店、大野氏邸内の説明板」

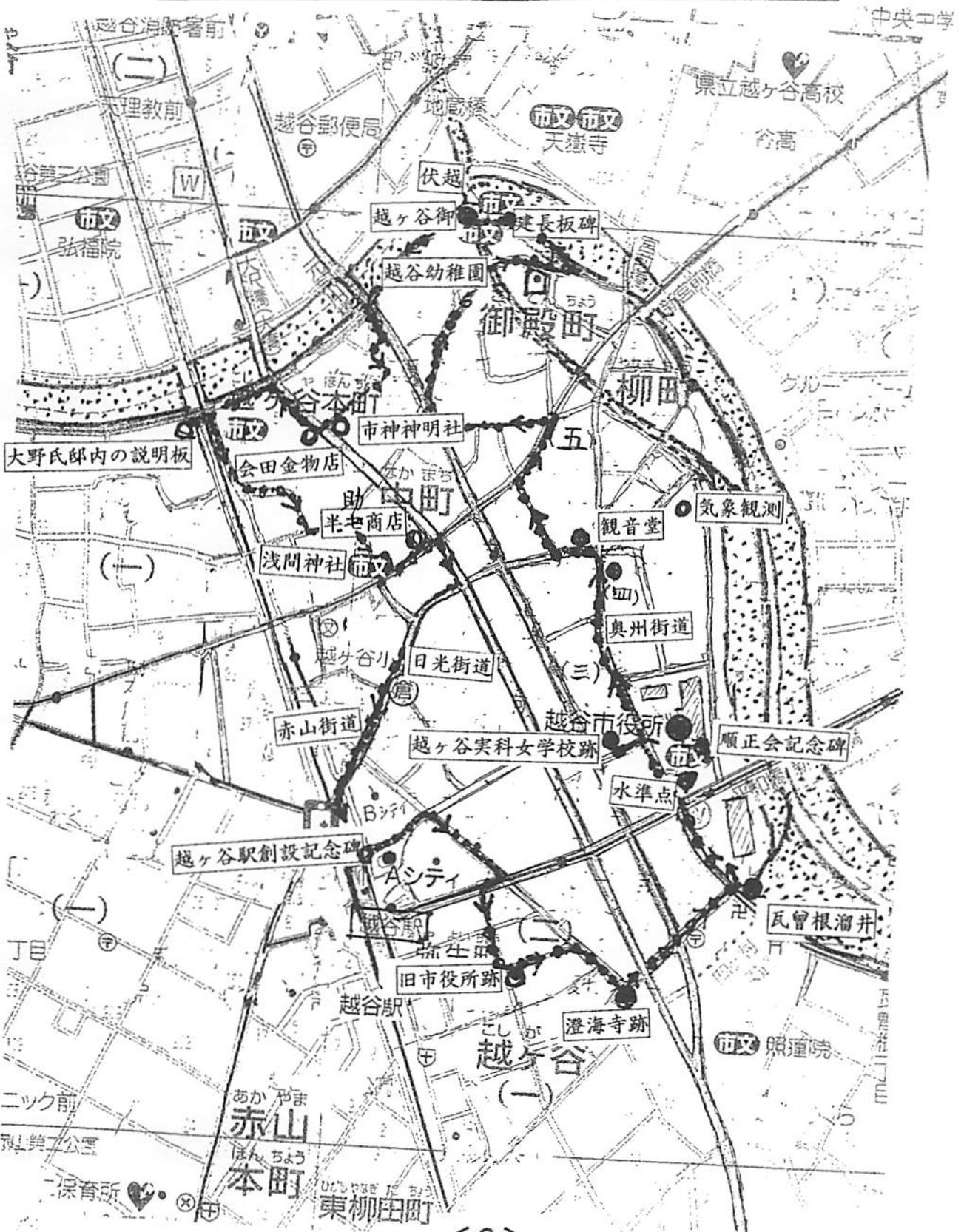
中町地区 「浅間神社、木下半七商店、有滝家のタブノキ、赤山街道」

集合場所 越谷駅 東口交番前

集合時間 8時30分

案内者 常任理事 田端 功政、田端グループ（実行委員・川端孝
夫、豊田益子、森田伝一）

今日の歩く道順



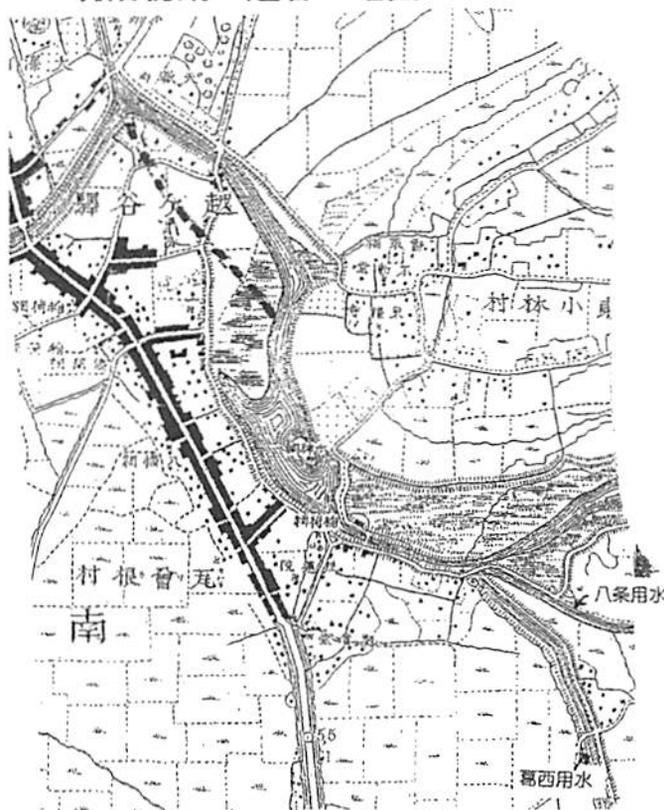
越ヶ谷宿(越ヶ谷町)

越ヶ谷宿の成立は、慶長7年(1602)、徳川氏による宿駅制度により奥州街道第二の伝馬継立所として新たに街道沿いに家並みが造成されたことにはじまる。はじめ奥州街道は千住から八条方面に出て、中川、元荒川の堤防を通り越谷に入った。越ヶ谷宿のうち越ヶ谷町は、越ヶ谷郷のうち四町野、花田、瓦曾根などの住民が街道に面し軒を接して区画された町割りにしたがいに新たに造成した人工集落で、越ヶ谷郷の郷名をとり、越ヶ谷町と名付けた。当町は、本町、中町、新町と三つの行政区に別れていた。寛永7年(1630)ころ草加宿ができ、越ヶ谷宿は奥州街道(後の街道)の第三の宿場になった。

古代の国境と越谷の位置



明治初期の越谷の地図



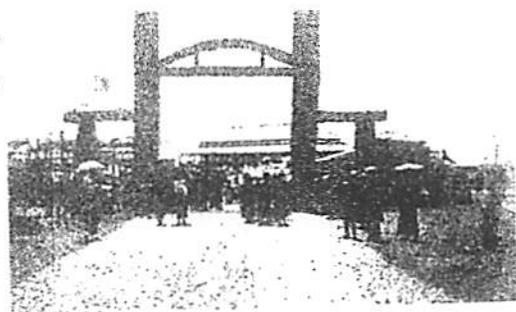
越谷と越ヶ谷

江戸時代は越ヶ谷町、越ヶ谷宿(こしがやじゆく)です。戦前まで「越ヶ谷」の文字が見られました。今は、越谷市というように「ヶ」をとります。それは昭和29年、二町八ヶ村「越ヶ谷町、大沢町、桜井村、大袋村、増林村、出羽村、荻島村、大相模村、蒲生村、川柳村」が合併したとき「越谷町」の町名になり「ヶ」を取った。

越ヶ谷駅

明治32年に東武鉄道（北千住—久喜間）開通。越ヶ谷駅は今の北越谷駅の場所に開設された。

大正9年（1920）4月17日、越ヶ谷駅は現在位置に開設され、明治32年にできていた越ヶ谷駅は武州大沢駅になった。



- ① 現在の立派な駅には、平成11年改築された。市内北越谷まで複々線になり、高架線になった。

「越ヶ谷駅停車場新設記念碑」越谷駅前の駐車場にある。



正面 越ヶ谷駅停車場新設記念

裏面 大正八年 期成同盟会

左側面 勳八等 池畑確男書

台座に役員名 会長「有滝七蔵」 評議員・山田直三郎 他23名 理事会田利治郎 幹事・篠田次右衛門 他2名

寄付者 金1310円会田善次郎 1093円 山崎長右衛門 900円～100円は16名あり 100円～5円は 新石一丁目の人28名 新石二丁目24名 新石三丁目の人6名の名前が記されている。

旧越谷市役所跡

昭和29年11月に2町8ヶ村が合併して、越谷町となり、昭和30年、町役場新庁舎が越ヶ谷一丁目に完成し、昭和33年に市制が施行され越谷市役所として利用された。昭和44年に移転されるまで、使用されていた。



澄海寺跡（東正院）道端の石塔

羽黒行人派の修験寺院跡で、この辺りは寺の境内であり、薬師堂があった。

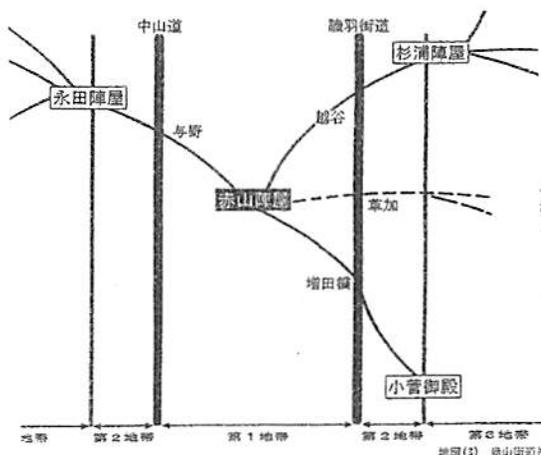
宝暦2年（1752）と寛政3年（1791）の青面金剛像の刻まれた庚申塔がある。秋葉講中寄進による「秋葉大権現」の石塔がある。その台石には寄進者の名前が刻まれている。店の職業を表す飴屋平右衛門、八百屋武兵衛門、紺屋甚兵衛門、米屋源助、豆腐屋・・鍛冶屋・・

佃煮屋・・、灰屋・・、と読める。この付近に店を営んだ人々が思いうかばれる。



赤山街道越谷道(赤山陣屋から杉浦陣屋)

赤山陣屋を起点として開発事業推進のためのルートとして関東郡代が建設・整備した歴史の道「永田陣屋（さいたま市）への道、小菅御殿（葛飾区）への道があった。」越谷市内では、一ノ橋（大間野）→赤山→観音堂→松伏の杉浦陣屋へと続いていた。



駅前から東にのびる道・通称銀行通り

越谷の人口増加にともない住宅建設、道路整備により市立病院、警察署に通ずる道として昭和42年に建設された。

越谷・足立線

昭和初年の世界恐慌により失業対策事業として北千住から春日部にのびる日光街道の拡幅工事としてはじめられた。市街地をずし建設された。

太平洋戦争により工事は遅れ、やっと昭和20年代北越谷まで出来た。



前橋付き不動明王像

HEROIC ARCHER

越ヶ谷宿の入口「中屋」

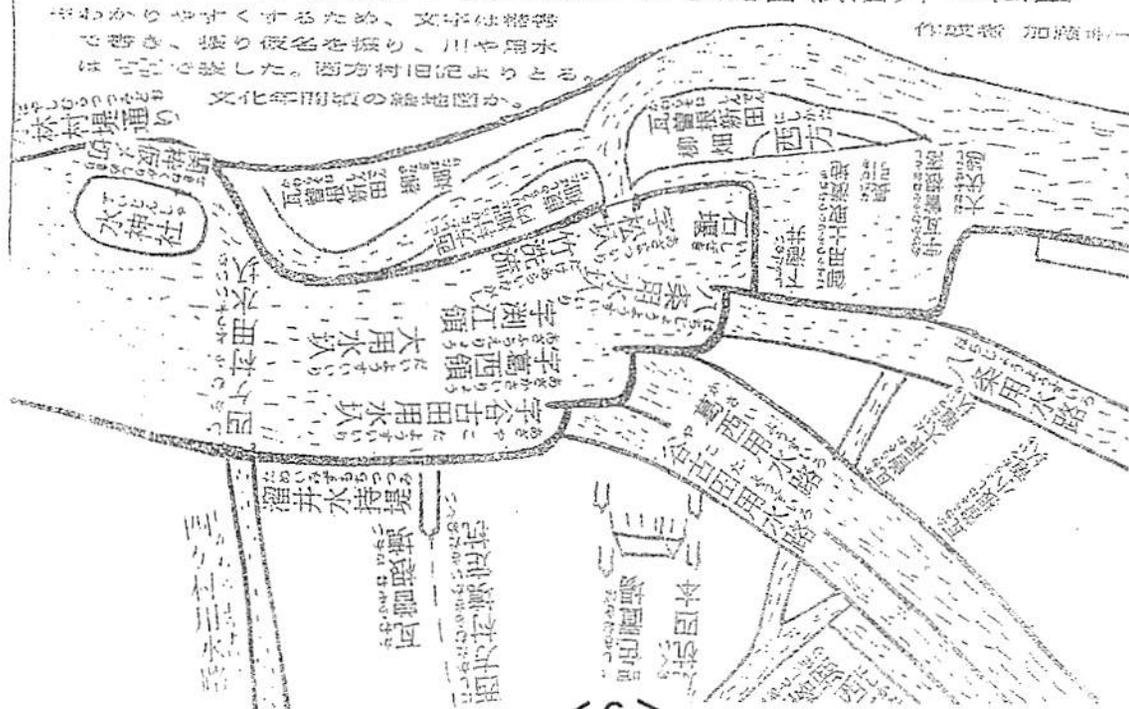
下図は、日光道中・越ヶ谷宿の入口にあった「中屋」さんです。「みみの薬」とありますが、「二八御めし、めんるい」、「御料理」、「御茶漬」、などともあって、薬屋さんと食堂を兼ねていたようです。この場所は、大相模不動尊へ行く不動道との追分でありました。



瓦曾根溜井

元荒川の流れを堰止め、灌漑用水とした溜井です。慶長年間（1598～1615）に開発されたと伝えられる、四ヶ村用水、八条用水。寛永6年（1619）新開の西葛西用水。延宝8年（1680）新開の谷古田用水として引水され、下流領域数万石の田畑を養う水源池でした。現在では行田市の利根大堰から利根川の水を引いています。

江戸時代後期の頃と思われる瓦曾根溜井の絵図



一等水準点

越谷市役所敷地内

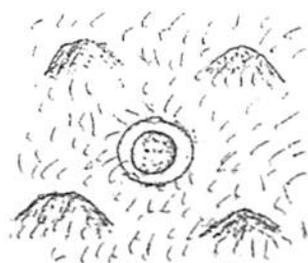
水準測量によりその標高が精密に求められた点。主要な道路に沿って約2kmごとに花崗岩の標石が埋められている。ここの海拔は現在3.5mと記録されている、と市役所の方に教えてもらいました。

水準点に書かれていること

この測量標を移転又は損すると測量法により罰せられます。

一等水準点。 基 + 本。 No2009

建設省国土地理院



越谷順正会、「相扶共済」の碑

越谷市役所敷地内 越谷市指定 有形文化財。

この石碑は国民健康保険制度の発祥とされる

「越ヶ谷順正会」の功績を讃え、国民健康保険法施行10周年にあたる昭和23年に建立されたものである。正面に刻まれた「相扶共済」の文字は、当時の林厚生大臣、によるものである。碑文には「この町の有志が創設した越ヶ谷順正会は当時国民健康保険制度の先駆者として世間の話題を集めた。・・ここに記

念碑を建立して草創の栄誉と先駆者の偉業を顕彰するものである。」との内容が書かれている。

埼玉県立越ヶ谷高等学校の創立場所

現在の越ヶ谷高校



越谷市役所前の民営の駐車場。

1926（大正15年）に越ヶ谷町立越ヶ谷実践女学校として開校した。

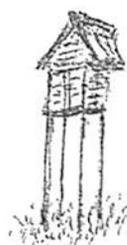
1930（昭和5年）埼玉県に移管、埼玉県立越ヶ谷高等女学校と改称。

1932（昭和7年）現在地に校舎新築完成

1949(昭和24年)埼玉県立越ヶ谷高等学校と改称。男女共学になる。

越谷気象測候所と雨量計

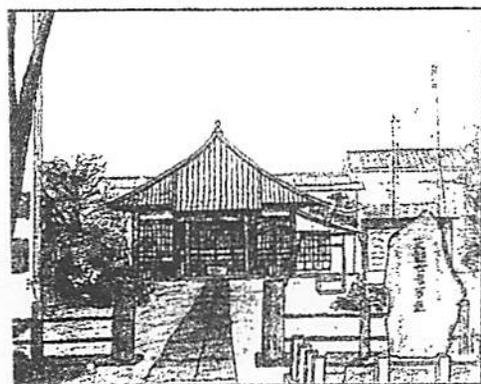
越谷気象測候所は県敷地の中に昭和52年から平成21年まであり、現在は健康福祉村に移されている。
越谷市・年間平均気温 15.2度



越谷の雨量計測は国土交通省江戸川河川事務所の屋上に設置されている。
越谷市・年間総降雨量 1,334.5mm



越谷観音堂

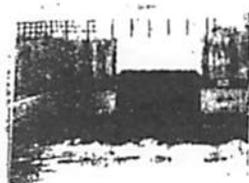
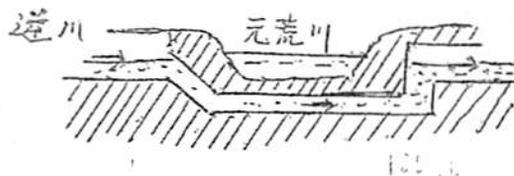


越ヶ谷の中町に通じる道であり、ここに集落があったので横町と呼ばれた。道の北側に浄土宗越ヶ谷天嶽寺持ちの「観音堂」があったため通称観音横町とも呼ばれた。観音堂の入口には、「新四国坂東二十七番札所、縁日毎月十日、二十日」と記された立札が立てられている。境内に享保六年(1721)建立の六地藏像、文政元年(1818)油屋吉右衛門奉納の観音像、青面金剛庚申塔、馬頭観世音像など江戸時代の石仏がある。

伏越（逆川と元荒川の分離工事）

昭和22年9月のカスリーン台風は、利根川の洪水をもたらした。栗橋の上流で土手が決壊し、越谷では、桜井・新方・増林地区が濁流により、大被害を受けた。国、自治体で水害予防対策と元荒川の生活排水の汚れを防ぐため、逆川（灌漑用水）と元荒川を分離することにした。

まず両川を分離する「中土手」の築堤。越ヶ谷御殿町から柳町を横断する新河道造成から始め、昭和41年に元荒川の下を逆川の水を通す（伏越）トンネル長さ100mを完成させた。瓦曾根溜井の灌漑用水は利根川水系の水になった。



伏越の出口

越谷幼稚園

大正12年創立（90年前）で埼玉県内2番目に開園された幼稚園。3年保育34名の規模。日本キリスト教団越谷教会付属。

日本キリスト教団越谷教会は、新島襄（同志社大）につながるキリスト教団。



明治17年、吉田兼三郎（越巻村）が米を積んで鳩ヶ谷に売りに行ったとき、路傍で説教をしている宣教師モーアの話を知り、いたく感動した。明治17年入信したのが越谷初の信者。明治22年主任者・正木定安師と共にグリングとモールは越谷町に進出し、越谷教会を創設する。

越ヶ谷御殿跡

越ヶ谷市指定 旧跡

慶長9年（1604）に増林にあった御茶屋御殿を越ヶ谷の土豪会田出羽

の領地内に移し、壮大な御殿を建造した。これを「越ヶ谷御殿」と称し



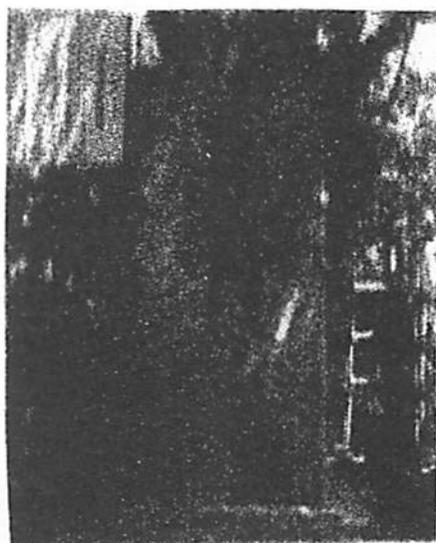
た。家康はしばしばこの越ヶ谷御殿に宿泊し、民情視察を兼ねた鷹狩りを重ねていた。ことに慶長18年(1613)には3度も訪れ、1日に鶴を19羽を捕獲したとある。また二代將軍秀忠も越ヶ谷御殿を訪れ、1ヶ月にわたり宿泊し鷹狩りに興じていた。しかし明暦3年(1657)の江戸大火で江戸城が全焼したため、急遽越ヶ谷御殿を解体し江戸に運び、江戸城を再建に使用した。

建長元年(1249)板碑

越谷市指定有形文化財。この板碑は、秩父の緑泥片岩で出来ている。板石塔婆と呼ばれている。板碑初期の鎌倉時代、建長元年の年号が刻まれている。

市内で発見された板碑の中で最古のものである。高さ155cm 幅56cmに及ぶ最も大きな板碑である。種子は阿弥陀仏が深く刻まれている。

板碑は、埼玉県内で約2万基あり、越谷市内に124基が確認されてきている。



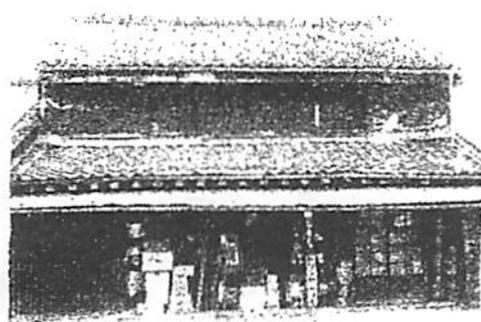
市神神明社

越ヶ谷本町の鎮守、市神神明社である。越ヶ谷六斎市の市神様として祀られていた。平成8年まで元荒川べりの大沢橋たもとにあった。寛永年間四町野村に神明社を移したと伝えられている。越ヶ谷町の六斎市は「文禄の頃(安土桃山時代)より毎月二と七、一二と一七、二二と二七の日に市が催され繁盛ぶりは街道を埋めつくすほどであった。

元荒川べりにあつた頃



会田金物店



大正5年の越谷案内には「古着、糸、繭商 富田屋 堀伊左衛門」。宿場町の面影を残す建物で、明治32年の火災では、二階ば一部が燃えただけで大きな被害をうけなかった。戊辰戦争を描いたような絵が壁に残されている。近藤勇が流山で捕えられ、板橋に護送される際に宿泊したと伝えられる家。

元荒川土手のサクラ百年の歴史

1 瓦曾根～寺橋まで・日露戦争勝利記念

今から約百十年前、日露戦争で勝利の記念事業として、桜が瓦曾根から寺橋まで元荒川土手の田んぼ側に植えられた。昭和30年頃まで花見ができた。道路拡張工事で桜の木は切られしまい花見ができなくなりました。

2 寺橋～東武線・紀元二千六百年記念



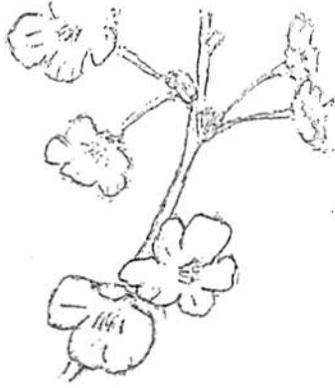
昭和15年(1940)、紀元2600年を記念して明治の桜に続いて寺橋から東武線近くまで桜が植えられた。「興亜の桜」と呼ばれた。

3 東武線西～文教大・北越谷の桜

昭和31年、元荒川の両岸に桜の苗木1200本を植樹した。宮本町、神明町側の土手の桜は、交通の妨げになるので伐採されてしまいました。



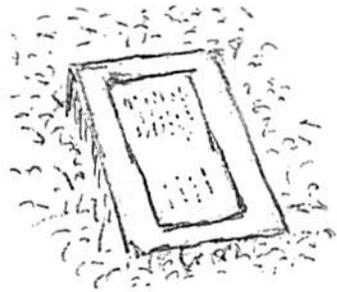
「ソメイヨシノさくらの由来」



ソメイは染井・粟鴨、駒込付近の地名。江戸時代、染井に住む植木職人がエドヒガンサクラとオオシマサクラをかけ合わせ育てた雑種。華やかで、美しく人々に好かれた。花ことばは「優しい美人」と言われています。平均寿命は約80年位です。

大野家の説明板

ここの元荒川河岸に川船、筏が繋がれ、明暦三年（1657）の江戸火災（振袖火事）の折り、ここから越谷御殿の資材が江戸に運ばれた。大野家は江戸末期には三連蔵、文庫、庭園と大きな屋敷で栄えた。大野家が北越谷元荒川の土手桜1200本を昭和31年に寄贈した。



ここの元荒川右岸土手に「埼玉水辺再生100プラン」計画で遊歩道ができた。

中町浅間神社

「不二仙元社」と記された額を掲げた木の鳥居があり、石段のついた土盛りの丘の上に拝殿がある。

その横手に樹齢数百年と見られる榎の大木がある。御手洗石（本町会田権四郎・田中午之助・浜野源介・荻野養益などの名前が刻また延宝三年九月）ある。毎年六月三十日に宵祭りが行われる。



みしろ石
御正体
(社堂)

木下半助商店

越ヶ谷案内には「縄、筵、農機具、金物、扱う商店」屋号は 創業者の名前から付けられた。

赤山街道と有滝家

有滝家の場所は かつて赤山街道、と奥州街道が会う場所であった。

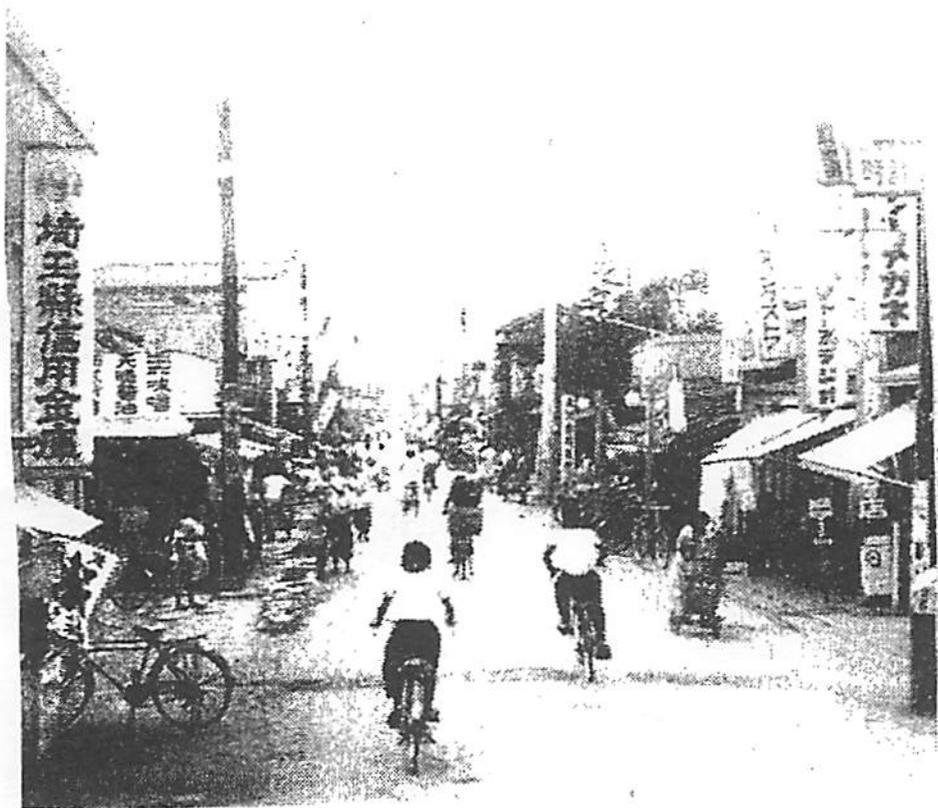
この十字路の左角は、もとは伊勢屋といい、幕末期の有力商人であった。古道に沿った黒塀が昔の家構えの面影をとどめている。



屋敷の西に、越谷市指定 天然記念物「タブノキ」がある。「タブノキ」はクスノキ科の常緑喬木で暖地に自生する。幹回り 3.7m、 樹高 17m、樹齢 400 年以上と記録されている。

越谷の歴史

- 縄文前期… 越谷地方は海であった。周辺台地に人が住んだ。
海退により市域は陸地化する。
- 古墳後期… この頃、見田方に集落が営まれる
- 奈良時代… 750年頃 大相模不動坊が創建されたと伝えられる。
- 平安時代… 861年頃 野島の浄山寺が創建されたと伝えられる。
- 鎌倉時代… 1249年 建長元年在銘の板碑が建てられた。
- 室町時代… 1457年頃 太田資清が岩槻城を築く。
1461年頃 足利成氏と上杉方との戦が越ヶ谷野であったと伝えられる。
1590年 徳川家康江戸城にはいる。
文禄年間(1592～1595)ころ、越ヶ谷の市、2と7の日の六斎市となる。
- 江戸時代 1604年 増林村の御茶屋殿を越ヶ谷に移す。
1608年 家康が会田出羽に屋敷地1町歩を与える。
1613年頃 瓦曾根溜井が開発され、八条用水など灌漑用水できる。
1621年頃 越ヶ谷宿が取立てられる。
1657年 江戸城火災で越ヶ谷御殿を二ノ丸に移す、
この頃 越ヶ谷宿の御定め人馬が25人25疋に定められる。
1707年 越ヶ谷・大沢両町に定められた問屋場が設けられる。
この頃、将軍、大名の日光社参により市域の村々が増助郷を命じられた。
1779年 大沢町の大松屋福井氏が越ヶ谷宿本陣となる。
1790年の頃 大沢町の飯盛り旅籠に手入れがあり、多数処罰された。
1836年 越ヶ谷宿の百姓が困窮者への施し米をおこなった。
- 明治元年(1868) 浪人討伐の鳥 薩摩・長州隊1500人日光道中を通行して越ヶ谷宿に泊る。
8年(1875) 越ヶ谷郵便取扱所が越ヶ谷郵便局と改称された。
22年(1889) キリスト教会が越ヶ谷町に設立された。大正3年幼稚園設置(埼玉県で2番目)
26年(1893) 千住馬車鉄道、千住～越ヶ谷開通・後に粕壁まで延びる。
32年(1899) 東武鉄道開通
41年(1908) 宮内庁御鴨場が大袋村大林に設けられる。
- 大正8年(1919) 7ヶ町村組合立東武農業学校が開設する。
9年(1920) 越ヶ谷駅現在地開設(旧越ヶ谷駅は武州大沢駅・現在の北越谷駅)
- 昭和10年(1935) 越ヶ谷順正会の発会式が行われる。13年国民健康保険指定組合となる。
19年(1944) 荻島飛行場の建設工事始まる。
22年(1947) 買出し部隊4,000人が越谷駅に殺到する。
24年(1949) 県立越ヶ谷高等女学校が県立越ヶ谷高等学校となり、男女共学となる。
32年(1957) 最初の統合中学校として増林地区に東中学校が開設。



昭和33年頃の越谷商店街

<次の資料から引用しました>

- 1 わが町の歴史「越谷」竹内誠・本間清利 文一総合出版
- 2 越谷の歴史物語（第1、第2、第3集）越谷市教育委員会
- 3 越谷ふるさと散歩 上 越谷市史編纂室
- 4 越谷市史第一巻 越谷市役所
- 5 越ヶ谷の沿革・史跡・伝説 鈴木和久、浅見静枝
- 6 越谷市制施行50周年誌 平成20年11月
- 7 史跡巡り 第404回 越谷市郷土研究会